



神奈川県

新型コロナウイルス感染症

高齢者福祉施設での療養のしおり



はじめに

このしおりについて

本県では、高齢福祉施設に入所されている方の新型コロナウイルスの陽性が確認された場合、原則は入院となりますが、県内の病床がひっ迫していることから、現在本県では感染者の病状等に応じて、当該施設での療養をお願いしております。

そこで、このしおりでは、感染を拡げないための日頃からの注意事項や、陽性確認された入所者への対応について、施設の管理者や職員の方向けにご案内しております。

このしおりで施設の皆様に最もお伝えしたいことは、事前の準備です。

施設の入所者に陽性確認がされたとき、クラスターを防ぐために施設、職員、入所者が速やかに行動することが大切です。そのためには、発生規模に応じた施設内の動線をどう確保するか、職員の配置をどうするか、職員などが使用する衛生物資は十分に確保されているか、不足した場合はどう調達するか、そして、こうした一連の具体的な手順はどのような優先順位で対応するべきかなど、あらかじめ、徹底した準備を行うことで、いざという時、迅速かつ適切な対応が可能になります。

県としても、衛生用品の緊急支援、クラスター対策チームによる拡大防止支援、応援職員の派遣、さらには、サービス継続・再開支援、そして福祉施設従事者向けこころの電話相談など、感染拡大防止、負担軽減のためのサポートをさせていただきます。

一日も早く新型コロナウイルスの収束を迎えるため、皆様一人ひとりのご協力をお願いいたします。

感染を拡げない日頃からの生活

「密閉」「密接」「密集」しない！

「窓を開ける」「換気をONにする」「大勢で集まるレク・リハをしない」「人と人が距離をあける」ようにしましょう。送迎の車中も気を付けて！

マスクは常に着用、咳エチケット等を徹底！

「マスクをつけられる人は全員着用する」「マスクを外して会話しない」「マスクできない人に近づくときはフェイスシールドを装着する」ことを徹底ください。また、布マスクや布エプロンの利用は避け、手や体が汚れる場合は手袋やガウン・エプロンを装着し、介護ごとに廃棄しましょう。

手洗い・手指の消毒！

「顔を触る前に手洗い・手指消毒」「トイレ後・食事前の手洗い」「ケア前後の手洗い・手指消毒」を実施。手洗いは石鹸と流水、消毒はアルコールを用います。

毎日の健康確認！

毎日の健康確認を職員と入所者にしてください。「健康確認→熱、鼻汁、咳、咽頭痛、食欲不振や下痢もチェック」「体調不良時は出勤・利用を中止」をしましょう。

食事は距離をあけて、顔と顔が近くならない！

食事中は感染しやすいです。「会話しない」「つばが飛んでも届かない距離をあける」「換気する」ことを徹底しましょう。入所者と職員と一緒に食べるのもやめましょう。

レクリエーションは声を出さない、集まらない！

レクリエーションは声を出さないものがおすすです。マスクをしていてもみんなで声を出すと、細かい飛沫がたくさん発生し、感染リスクが高まります。集合せずに、定位置で行える娯楽を計画しましょう。

感染が発生した時の予行演習しましょう！

次ページ以降で、施設内療養の注意点を示します。職員の感染対策、施設の区域分け、人員配置、衛生物資の確保、ゾーニングの具体的な手順など、事前にシミュレーションを行ってください。なお、必要物資は1日当たりの使用数を事前に把握し、一定数を備蓄しておいてください。

十分な換気！

換気は1時間に2回以上換気してください。（2方向の窓を1回数分程度全開にする）また、施設の換気設備は常時ONにしてください。

感染者が発生した場合の留意点（1/4）

まず初めに、次の項目を実施してください！

- **保健所及び指定権者等の関係機関に速やかに連絡してください**
 - ▶ 施設内の状況を確認し、次の人数の把握をしてください。
（職員数、入所者数、うち感染者数、有症状者数）
 - ▶ 保健所による感染拡大防止の指導のほか、県がサポートに入ります。

- **職員及び入所者のPCR検査の計画を保健所に相談してください**
 - ▶ 職員及び入所者のリストを作成してください。
（感染者・濃厚接触者・その他入所者／受検者・検体採取日などがわかるように）
 - ▶ 施設で感染者が1例でも確認された場合、行政検査が実施できます。
（高齢者は重症化しやすく、クラスター発生の影響が大きい）

- **ゾーニングを作成してください**
 - ▶ 施設の図面を用意し、ゾーンごとに区分してください。（5頁参照）
※例 ①感染者：個別隔離部屋（複数いる場合は同部屋でも可）
②感染者と同部屋だった入居者：そのまま感染者と同部屋
③有症状者：PCR検査結果が出るまで動かさない
 - ▶ 陽性・陰性を確認する前に部屋を移動することは危険です。

- **必要物資を確認してください**
 - ▶ ガウン・ゴーグルなど何日分あるか在庫を確認
 - ▶ 消毒液の確保も忘れずに

- **レクリエーションは当面中止し、食事は個室や、時間を分散するなどして集団で集まらないようにして取ってください**

感染者が発生した場合の留意点（2/4）

（１）職員が行うこと

感染から身を守る

感染者の部屋に入る場合は、N95マスク（※１）、眼の防護具（※２）を着用します。

感染者に密接する場合は、追加で長袖ガウン、手袋を着用します。

N95マスクなどが不足の場合は県から送付します。

着脱方法は（※３）を参照ください。



（※１）使用後は洗わず、72時間経過後に再利用できます。

（※２）アルコール消毒して再使用できます。

（※３）着脱方法は、こちらの動画を参考にしてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=dDzljvxMNIA>



必要ない感染対策の例

▶ 次亜塩素酸水の使用（加湿器・環境消毒）

* 次亜塩素酸水は消毒効果が限定的です。使用しないでください。

▶ 足ふきマットや足カバー・ヘアキャップ

* 足の消毒とカバーは不要です。足は触らないようにしましょう。

* ヘアキャップは不要です。ケア中に頭に触れないでください。

▶ 何度も手すりや机を消毒すること。

* 環境は汚染していると考え、環境に触れたら手指消毒しましょう。

職員の健康管理

職員も感染し発症する可能性があります。毎日の健康確認を行い、体調がおかしいと思ったら休んでください。職員同士がマスク無しの会話をしないよう、食堂・休憩場所・喫煙場所・更衣室の行動に注意をしてください。

情報共有

感染者・濃厚接触者のリストと部屋の場所を表示し、感染対策をどのように行うのが職員全員にわかるように周知しましょう。

入所者の家族と近隣住民への説明と対応・公表について、方針を決め実施してください。

管理者は、職員体制、入所継続している感染者の状況、その他の入所者の状況、物資の状況等について、適時指定権者に報告を行ってください。（指定権者への報告により、応援職員や衛生物資について、必要な調整、支援を行います。）

感染者が発生した場合の留意点（3/4）

（２）施設が行うこと

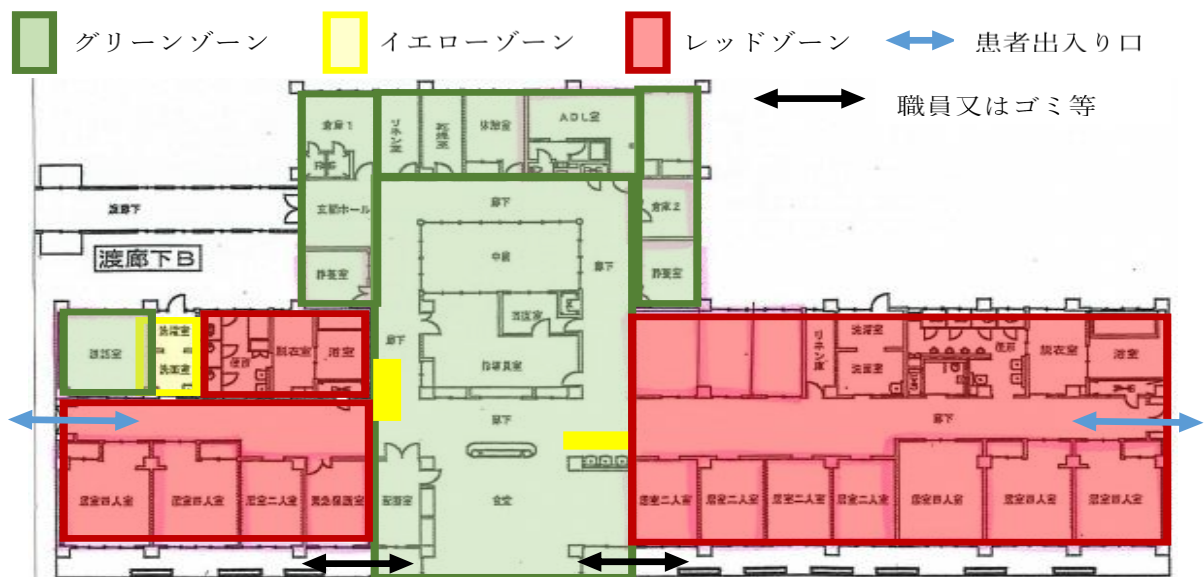
生活空間を分ける

「感染した入所者」「濃厚接触者」「その他の入所者」「職員の場所」の生活空間を分けてください。その区分を誰もがわかるように表示してください。

個室がない場合は「感染者」同士を同じ部屋にします。

感染者が部屋から出てトイレに行く場合を想定して、廊下で「その他の入所者」と会わないようにパーテーション等で廊下を区切りましょう。ポータブルトイレを室内に設置しても良いです。

下記ゾーニングは一例ですので、感染者人数や施設の居室の構造や契約状況により異なります。



- ① グリーンゾーン（通常区域）：防護用具の着用所。詰所。ウイルスがない
- ② イエローゾーン（中間区域）：防護用具の脱衣場所。ウイルスは多少存在
- ③ レッドゾーン（患者区域）：感染者の生活空間。ウイルスが存在する

担当職員を明確にする

感染した入所者、濃厚接触者、その他の入所者の介護にあたっては、可能な限り担当職員を分けて対応ください。夜勤時等、分けることが困難な場合は、入所者ごとの手指衛生・防護用具の着脱には特段の注意を払ってください。

感染対策の徹底

食事は部屋で食べるようにしてください。レクリエーションなど共有スペースでの活動は中止してください。また、面会等はお断りしてください。「密閉」「密接」「密集」しない、マスクは常時着用など、日頃から実施している感染対策の徹底をお願いします。

感染者が発生した場合の留意点（4/4）

（３）療養を支援する時に気を付けること

入所者がマスクをしない場面での対応

入所者がマスクをしない場面では、飛沫からご自分を守るためにN95マスクやフェイスシールドを装着しましょう。手や体が汚れる場合は手袋・ガウンを追加して装着ください。なお、見守り・巡回など飛沫が発生しない場面は、マスクのみでの装着でも可能です。

食事・口腔ケア介助	排泄の介助	清拭・入浴の介助
<ul style="list-style-type: none">● 食事は原則個室。● 食事・服薬・口腔ケアの介助はマスク＋目の防護用具を着けて行う。● 食器・調理器具は洗浄すれば感染性はなくなる。使い捨て容器の利用も可能。	<ul style="list-style-type: none">● 「感染者」「濃厚接触者」「その他の入所者」「職員」のトイレを分ける。● おむつ交換はN95マスク・サージカルマスクに加え、目の防護用具、手袋、ガウン・エプロンを着用。	<ul style="list-style-type: none">● 要介助者は、入浴ではなく清拭する。● 自立している場合は、入浴も可能。ただし、複数で入らないようにする。

ごみの処理

ウイルスは72時間経過すると不活化します。ごみ袋を密封して3日間経過した後に、一般ごみとして廃棄してください。ごみ袋には日付を記入するとよいでしょう。

ごみを取り扱う際は、マスク・手袋・手洗い等により感染防止対策を行ってください。

ごみの運搬は通常通り、ごみの保管は屋外を避け、部外者の入らない場所にします。

なお、介護老人保健施設等「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令別表第一の4の項」に記載の施設は、感染性廃棄物として処理することが必要となります。

洗浄・洗濯

食器類の洗浄や衣類・リネンの洗濯は、通常の洗剤で行い、しっかりと乾燥させてください。なお、感染者の体液で汚れた衣類・シーツ等を扱う際は手袋とマスクを装着してください。

環境清掃・消毒

ウイルスは界面活性剤（掃除用洗剤）・アルコールで不活化しますので、環境の清掃は通常通りで問題ありません。

感染者の部屋の清掃はごみの廃棄と汚れの清掃のみとします。感染性のある期間を過ぎてから、通常清掃を再開しましょう。

入所者の健康管理（1/2）



①保健所と健康管理の方法を相談する

感染した入所者について、保健所と次のことを事前に相談ください。

- 健康管理の方法
- 保健所へ報告が必要な時と連絡方法
- 急変時等の対応

次ページの健康観察記録表（例）を参考にしてください。

② 1日2回、健康状態を確認し、記録する

保健所の指示に従い、感染した入所者の検温、症状、パルスオキシメーターを使用した酸素飽和濃度（SpO2）の確認をし、記録してください。

パルスオキシメーターがない場合は県から貸与します。

県（療養サポート窓口）が、記録を1日1回聞き取りいたします。

③変化があった場合、協力医療機関等に相談する

④状況に応じ保健所・コロナ119番に相談する

症状や状態に変化があった場合には、速やかに配置医や協力医療機関、かかりつけ医に相談してください。感染者の酸素飽和濃度（SpO2）が95%を下回り、協力医療機関等が入院の必要性があると判断した場合は、神奈川県コロナ119番に連絡してください。



SpO2の数値
左の例）98%

⑤他の入所者の健康状態を確認する

他の入所者（濃厚接触者含む）の健康状態を確認ください。発熱や咳・呼吸が苦しいなどの症状が現れた場合は、速やかに協力医療機関等へ受診し、新型コロナウイルスの検査をご検討ください。

連絡先：感染者の体調の悪化・急変等による緊急相談窓口

神奈川県コロナ119番：045-285-1019（24時間）

入所者の健康管理（2/2）



健康観察記録表（例）

報告日： 年 月 日 施設名

No.	(フリガナ) 氏名	性別	年齢	生年月日	発症日	陽性 確定日	基礎疾患	入院優先 度判断 スコア	延命措置の 有無・ 確認日	体温		酸素飽和 濃度		体調メモ
										朝	夜	朝	夜	
例	カナガワハナコ 神奈川 花子	女	84	1935/5/1	1月3日	1月5日	糖尿病	3	有 1月9日	36.5	36.5	98	97	食欲なし
1														
2														
3														

緊急性の高い症状

※は、職員がご覧になって判断した場合です。

表情・外見	顔色が明らかに悪い ※ 唇が紫色になっている いつもと違う、様子がおかしい ※ 飲食が全く摂れない
息苦しさ等	息が荒くなった（呼吸数が多くなった） 急に息苦しくなった 日常生活の中で少し動くと息があがる 胸の痛みがある 横になれない・座らないと息ができない 肩で息をしている・ゼーゼーしている
意識障害等	ぼんやりしている（反応が弱い） ※ もうろうとしている（返事がない） ※ 脈がとぶ、脈のリズムが乱れる感じがする

急変時の対応について

●事前に確認しておくべきこと

- ・陽性確認された入所者のご家族等との間で、急変時にどこまでの医療を希望するか（蘇生行為、人工呼吸器装着など）、その対応について、あらかじめ話し合いを行ってください。

●容体が急変した場合の対応

- ・新型コロナウイルスに感染し、亡くなられることも想定されるため、施設で看取りを行う場合は協力医療機関等に死亡診断の依頼を行う、対応できる葬儀社を確認しておくなどの事前準備を行ってください。

療養のおおまかな流れ

1) PCR検査実施

PCR検査を受けた方のうち、陽性で、軽症の方は施設内療養の可能性があるので、基礎疾患の状況など協力医療機関等と療養にあたって必要な情報を確認してください。

2) 入所施設待機・療養準備

PCR検査結果が出るまでの間に、施設の感染対策と療養者への準備をお願いいたします。

3) 結果通知、療養先への移動

医療機関または保健所が検査結果を連絡します。陽性と判明した場合は、保健所より、療養に関するご案内のお電話をいたします。

4) 療養中

療養期間は、厚生労働省通知に基づき、発症日（無症状の方又は発症日が明らかでない方は、陽性確定に係る検体採取日）から10日間が経過した日（11日目）までとしています。療養期間中は、外出をせずに入所施設で過ごしていただきます。療養期間中は注意事項や生活上のさまざまな制約もございます。また毎日の健康状態の報告をしていただきます。

5) 療養終了

療養開始日に、療養終了の見込日についてお知らせします。ただし、療養期間の最終3日間において、咳や発熱などの症状がある場合は、必要に応じて療養期間が延長となる場合もございます。なお、「治癒証明書」は発行できませんが、希望に応じて「療養証明書」の発行は可能です。

【よくある質問】

Q：療養終了後の方とまだ終了していない方を一緒にしてよいのか？

A：再感染の可能性は低いので、かまいません。



療養期間終了の目安

神奈川県では、最新の学術研究による科学的根拠に基づき、10日間の療養期間の最後の3日間に咳や発熱などの症状がない場合は、PCR検査を行わずに療養終了としています（厚生労働省通知も同旨の療養終了を認めています）。

また、県民の皆様が安心して社会に復帰できるよう、希望者には、所定の療養期間、療養したことを証明する文書を発行しております。

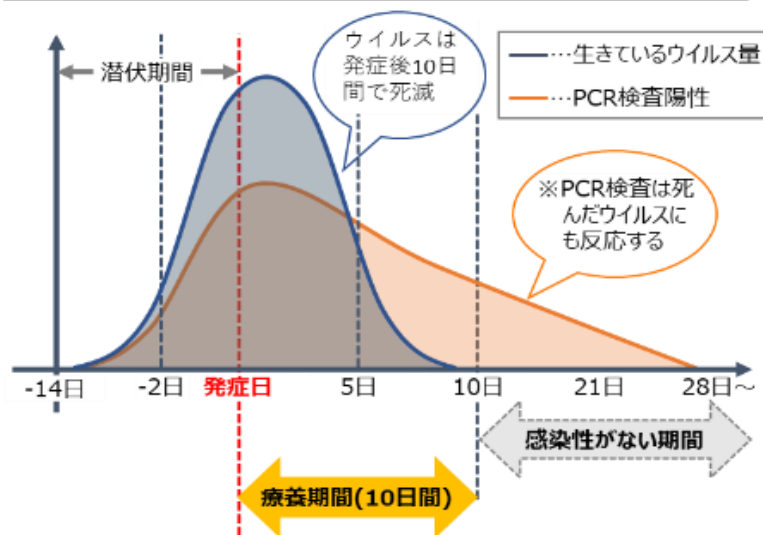
<科学的根拠の紹介>

- 体のなかの新型コロナウイルスは、発症から10日程度で死滅するため、発症後10日以降は、他人に感染させてしまう可能性は限りなく低減されます。
- PCR検査では、死滅したウイルスのかけらにも反応してしまうことから、ウイルスが死滅しているにも関わらず、長期にわたって陽性反応となることがあります。



これらのことから、発症日または検体採取日からの10日間のうち最後の3日間に咳や発熱などの症状がないことを確認できた場合、「他人に感染させてしまう可能性を限りなく低減させた状態になった」といえます。ただし、最後の3日間に咳や発熱等の症状がある場合は、皆様に安心して療養を終えていただくため、医師と相談して、療養期間を延長する場合があります。

神奈川県における療養期間



※一度症状が消失した後、再度症状が出現した場合は、症状軽快後、さらに3日間の療養が必要です。

※無症状で療養していた方に新たに症状が出現した場合は、その日からさらに10日間の療養が必要です。

(出典) ①Hao-Yuan Cheng et.al. Contact Tracing Assessment of COVID-19 Transmission Dynamics in Taiwan and Risk at Different Exposure Periods Before and After Symptom Onset. *JAMA Intern Med.* Published online May 1, 2020. ②Wolfel, R et.al. Accelerated Article Preview. *Nature.* Published Online 1 April, 2020 から、新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部作成

県内の病床がひっ迫していることから、入院された入所者で退院基準を満たした方については、速やかに施設で受け入れていただけるようお願いします。

県の支援策

① 衛生用品の緊急支援

マスク、消毒液、フェイスシールド、防護服等の衛生用品が不足する場合に緊急配布します。

② クラスター対策チームによる拡大防止支援

新型コロナウイルス感染症のクラスター対策チーム（C-CATなど）が、調査、感染拡大防止指導を行います。

③ 応援職員の派遣

感染発生により、福祉サービス維持が困難な場合、応援職員の派遣調整や短期雇用人材の紹介をします。

＊ 応援派遣や雇用に伴う経費等への支援あり

④ サービス継続・再開支援

感染者・濃厚接触者対応に伴う経費への支援（危険手当含む）

＊ 事務所・定員あたりの補助基準額まで

連絡先：①、③、④

・ 介護老人福祉施設、短期入所、養護、軽費

▶ 高齢福祉課福祉施設グループ 045-210-4851

・ 介護老人保健施設、介護医療院、多機能型、居住系

▶ 高齢福祉課保健・居住施設グループ 045-210-4856

※ 政令市、中核市については、市を通じてご連絡ください。

② 保健所の要請に応じて、訪問させていただきます。

保健所一覧

現在、各保健所には電話が集中しており、つながりにくい場合がございます。
ご理解よろしくお願いします。

お住いの市区町村		機関名	電話
横浜市	鶴見区	鶴見福祉保健センター	045-510-1832
	神奈川区	神奈川福祉保健センター	045-411-7138
	西区	西福祉保健センター	045-320-8439
	中区	中福祉保健センター	045-224-8332
	南区	南福祉保健センター	045-341-1185
	港南区	港南福祉保健センター	045-847-8438
	保土ケ谷区	保土ケ谷福祉保健センター	045-334-6345
	旭区	旭福祉保健センター	045-954-6146
	磯子区	磯子福祉保健センター	045-750-2445
	金沢区	金沢福祉保健センター	045-788-7840
	港北区	港北福祉保健センター	045-540-2362
	緑区	緑福祉保健センター	045-930-2357
	青葉区	青葉福祉保健センター	045-978-2438
	都筑区	都筑福祉保健センター	045-948-2350
	戸塚区	戸塚福祉保健センター	045-866-8426
	栄区	栄福祉保健センター	045-894-6964
	泉区	泉福祉保健センター	045-800-2445
	瀬谷区	瀬谷福祉保健センター	045-367-5744
川崎市	川崎区	川崎区役所地域みまもり支援センター	044-201-3223
	幸区	幸区役所地域みまもり支援センター	044-556-6682
	中原区	中原区役所地域みまもり支援センター	044-744-3280
	高津区	高津区役所地域みまもり支援センター	044-861-3321
	宮前区	宮前区役所地域みまもり支援センター	044-856-3265
	多摩区	多摩区役所地域みまもり支援センター	044-935-3310
	麻生区	麻生区役所地域みまもり支援センター	044-965-5163
相模原市		相模原市保健所	042-769-8260
横須賀市		横須賀市保健所	046-822-4300
藤沢市		藤沢市保健所	0466-25-1111
茅ヶ崎市・寒川町		茅ヶ崎市保健所	0467-85-1171
平塚市・大磯町・二宮町		平塚保健福祉事務所	0463-32-0130
秦野市・伊勢原市		平塚保健福祉事務所 秦野センター	0463-82-1428
鎌倉市・逗子市・葉山町		鎌倉保健福祉事務所	0467-24-3900
三浦市		鎌倉保健福祉事務所 三崎センター	046-882-6811
小田原市・箱根町・真鶴町 湯河原町		小田原保健福祉事務所	0465-32-8000
南足柄市・中井町・大井町 松田町・山北町・開成町		小田原保健福祉事務所 足柄上センター	0465-83-5111
厚木市・海老名市・座間市 愛川町・清川村		厚木保健福祉事務所	046-224-1111
大和市・綾瀬市		厚木保健福祉事務所 大和センター	046-261-2948

福祉施設従事者向けこころの電話相談

新型コロナウイルス感染症患者に
対応されている

医療機関・福祉施設の皆さまへ



～県内医療機関・福祉施設従事者向け
こころの電話相談を行っております～

受付時間 平日 13:00～21:00 (最終受付 20時45分)

医療機関・福祉施設従事者 専用こころの相談電話

☎045-821-7700

お電話をお待ちしております

神奈川県では、新型コロナウイルス感染症とその疑似症の患者の発生が続く中、最前線の医療機関で働いておられる方と、感染者の対応をされている福祉施設の方への電話相談窓口を設置いたしました。今回の感染症との戦いで大変重要な役割を担い、日々ストレス状態に置かれている皆さまのこころの相談をお受けいたします。

※新型コロナウイルス感染症の症状・対策等についての相談先ではありません

○神奈川県内で働いておられる方、お住まいの方が対象となります(職種は問いません)。

○相談は、専門の相談員がお受けいたします。プライバシーは守りますので、安心してお話ください。



<問合せ先>

神奈川県精神保健福祉センター

〒233-0006 神奈川県横浜市港南区芹が谷 2-5-2

電話：045-821-8822 (代)

